



ントカレンダーを作っては？」といった具体的な提案を出せました。

「いろいろな立場の社会人と交流できて刺激になる」「これからはもっといい意見が言えるように自分の引き出しをたくさん作る！」と今後の活動に更なる意欲を沸かせています。

シリーズ「武雄高校生へのメッセージ」VOL. 1

### 「自分を大切に、主体的に生きる」

学校運営協議会 会長 岡本忠裕（高峰寺住職・あさひこども園園長・本校 OB）

新たな一年が始まり、皆さんが活気に満ちた学校生活を送っていることを心から嬉しく思います。今日は、「主体性を持つこと」の重要性についてお話ししたいと思います。



私たちが日々の生活の中で直面するのは、無数の選択です。その選択をするとき、時に他人の期待や周囲の「空気」に流されてしまうことがあるかもしれません。しかし「空気を読む必要はありません」。他者の反応や周囲の無言の圧力に惑わされることなく、自分の思いや考えを大切に、それをしっかりと表現することが何よりも大切です。

言葉で気持ちを伝えることを蔑ろに<sup>ないがしろ</sup>してしまうと、最も大切な自分自身を見失ってしまいます。自らの本音を隠していると、次第に心は重くなり、自由を感じることができなくなるからです。「幸せとは本音と言えること」。言葉にする重みは増えますが、心は軽くなり、自分らしい生き方ができるようになります。

赤ちゃんの成長過程を思い出してみてください。赤ちゃんは、未知の世界を理解するために、手に触れるものを口に入れ、必死にハイハイし、感情を伝えるために大声で泣きます。この行動こそが「生きる力」であり、赤ちゃんが持っている主体性の表れです。「生まれながらに主体性を持たない人はいません」。私たちも最初からその力を持って生まれてきているのです。

もちろん、社会生活を送る中で、他者との調和を意識することは重要ですが、思いを犠牲にしてまで他人に合わせる必要はありません。意見をしっかりと持ち、それを恐れずに表現することが、自分らしく生きるための力となります。失敗を恐れることなく挑戦し続けることが成長に繋がります。失敗を経験し、その中から学ぶことでこそ、自己成長を実感できるのです。

自らの意志を大切に、他人の目を気にせず、主体的に生きることです。自分の本音を尊重し、迷わず前に進んでいくことで、皆さんの未来は必ず開けます。御自身の人生を歩む力を信じてください。私達も皆さんを信じて支え続けます。

※当面の予定は紙面の都合上、割愛します。あしからず。

桃李塾は中高生を対象にした歴史、伝統、文学、科学等の勉強会です。3月までにあと3回佐賀市のアバンセで開催されます。興味がある人は下村まで！



（閑人閑話）不確実性という霧に包まれたNONが始まった。これまでも「混沌の時代」とか「先行き不透明」とかよく言われてきたものだが、それでもかつての言葉にはまだ先の予測がおぼろげながら見えていたような気がする。▼年末、山口県萩市を訪れた。吉田松陰の松下村塾を見るためだ。松陰の志を継承する桃李塾で塾長の川口雅昭氏との出会ったことがきっかけ。70を超す年齢とは思えないその気迫に圧倒された。▼安政の大獄に連座した松陰は29歳で生涯を閉じた。彼の生きた時代もまた欧米列強を前にした混沌の時代だった。▼21歳で長崎平戸へ、翌年江戸へ遊学。23歳の時ペリ1艦隊来航に危機感を覚え志士の活動を開始。やはり20歳前後の数年間はその人の生き方の原型を造る。▼「君子の道に志すや、すなわち学び、則ち思ふ。昼日之を学び、暮夜之を思ふ。思えば得るあり、学べば為すあり」とは松陰の言葉。心ある立派な人が道に志を立てた際には学問に励み、またそれをわが身に当てて考えるものである。昼間学問に励み夜分その日に学んだことを考える。考えれば得るものがあり学べば行うべきことがある、という意味。▼戦後80年。平和な歳月を重ねてたどり着いた貴重な節目の年だ。しかし世界の混沌は深い。先行きを案じるだけでは未来は開けない。危機感に変革の生みの親となる。混沌に臆することなく新しい取組に全力を尽くそう。（弓口）